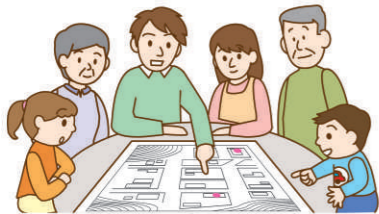


● みんなで決めて、みんなで避難

避難を呼びかける情報があったとしても、個人では避難をためらってしまいがちです。地域で逃げる仕組みを考えておくことで、避難の決断がしやすくなります。

日頃から…



避難先や避難のきっかけをみんなで決めておく



1人では避難できない方をみんなで把握する

その時が来たら…

みんなで逃げよう!



例えば…

声をかけあってみんなで早めの避難



● みんなで手を取り合い助け合うことが大切です

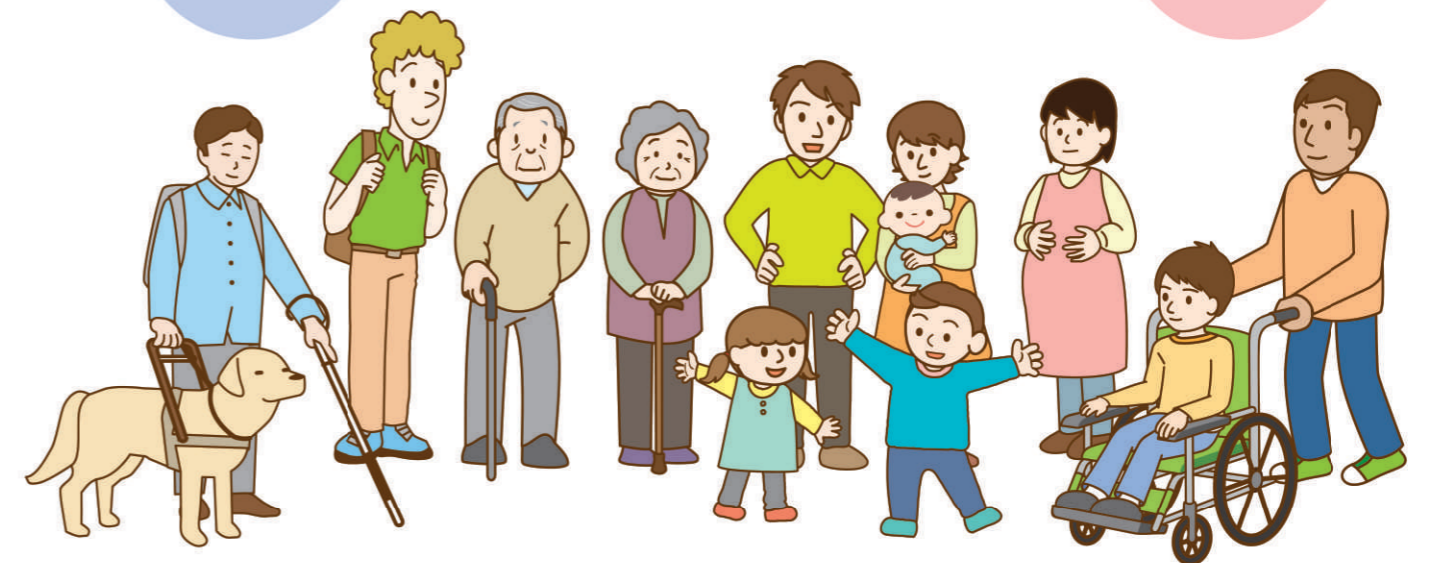
隣近所の人や地域の人と声をかけあえる関係づくりのためにも、町会・自治会の活動に積極的に参加しましょう。

● いざというとき 頼りになるのは地域のちから

多くの人々は、災害対応の責任の多くが行政にあると考え、また期待もしています。しかし、実際の災害は多くの場合、行政にとっても想定を超える外力で発生しています。こうした自然災害に対して、私たちの暮らしの全てを守りきることは不可能です。とはいえ、行政は災害への対応(=公助)を投げ出しているわけではありません。不測の事態に備え、袋井市としてできる限りの体制を整えています。

そして、市民の皆さまには、行政の対応だけでは守りきれない事態において、自分の身は自分で守る「自助」以外にないことを、あらためてご理解いただきたいのです。加えて、自らの対応が充分に行えない災害時避難行動要支援者には、地域コミュニティ (=共助)をもって対応していただくことも重要です。

過去の災害をみても、いざというとき頼りになるのは地域のちからです。災害時、地域の共助による要支援者の安否確認や避難誘導・支援等にご協力をお願いします。



あなたの助けを必要としている人がいます

地域のちから

地域のちから

Column

● 住民みんなが顔見知り 三条市 60代 男性 市役所職員

私は三条市の中山間部にある世帯数26戸の小さな集落に暮らしています。毎冬、雪がかなり積もる以外は自然豊かでよいところ。近くに川が流れていますが底が深いので、これまで洪水など全く無縁と思って暮らしてきました。

しかし、2011年7月29日は、雨の降り方が異常でした。ただならぬ気配を感じた私は、自治会長とともに集落内の見回りを始めました。避難勧告が出たのはその直後です。高齢者などは避難に時間がかかることを自覚しており、率先して避難準備を始めました。住民皆が顔見知り、だれが避難困難者なのかをお互いに知っており、情報交換ができたのは小さな集落ならではの良かったと思います。作業も順序立てて、協力し合っていました。

三条市指定の避難所もあったのですが、私たちは集落の集会所を最終的な避難所に独自に指定しました。市指定の避難所は少し離れた場所にあるので、高齢者などのことを考えると移動は困難と判断したのです。

判断が速かったことで、避難後は余力のある者が力を合わせて、まず道路を確保し、交通整理を行いました。隣の集落に救出活動に出かける余裕もありました。これだけスムーズに行動ができたのは、日ごろの近所づきあいと統制のとれた自治会活動のたまものと思っています。

出典：内閣府ホームページ「1日前プロジェクト 三条市の豪雨（平成16・23年7月）」より



● 自主防災活動に参加しよう

地域ぐるみで防災対策を

自主防災組織は隣近所・向こう三軒両隣の「顔の見える関係」を大切にした防災活動を行う集まりのことです。「自分たちのまちは自分たちで守る」ために活動しています。自主防災組織は、自治会組織を兼ねている地域が大半です。自治会に加入して地域ぐるみで災害に備えましょう。

平常時の主な自主防災活動

防災知識の普及

- 地域の防災マップの作成
- 防災講演会などのイベントの実施
- 防災施設の視察



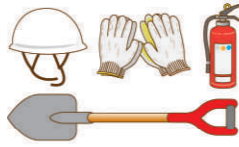
防災巡視・防災点検

- ハザードマップでの危険箇所の把握
- 燃えやすいものの放置状況の点検
- ブロック塀、石垣、看板、自動販売機など倒れやすいものの点検



防災資機材などの整備・管理

- ヘルメット、消火器、担架、ハンマー、バール、投光器、発電機などの救助用工具や防災資機材の整備・管理
- 非常時の食料品、救急医療品などの備品の管理



防災訓練の実施

- 初期消火訓練
- 救出・救護訓練
- 避難誘導訓練
- 情報収集・伝達訓練
- 炊き出し訓練
- 避難所運営訓練



緊急時の主な自主防災活動

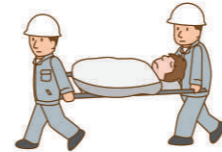
安否確認

- 要配慮者を含む地域住民の安否確認



救護活動

- 負傷者の応急手当、救護所への搬送



初期消火活動

- 消火器・バケツリレーなどによる初期消火活動

救出活動

- 負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動



情報の収集・伝達

- 災害に関する正しい情報の収集・伝達



避難所の運営

- 避難所施設の状況確認
- 避難者誘導・受け入れ
- 避難者の居住場所と業務の割り振り
- 備蓄食料や救援物資などの避難所への運搬および配布
- 炊き出し
- 水の確保
- トイレの清掃
- ゴミの撤収保管
- 施設内の清掃
- 感染症対策



自主防災組織の活動に係る市の取組 令和7年3月現在

自主防災対策事業補助金

自主防災組織による防災資機材等の購入費に対する補助金を交付しています。詳しくは自主(連合)防災隊長会議で説明しています。

自主防災組織リーダー等研修会

市内の各自主防災組織のリーダーを含む全ての方々を対象に、防災に関する知識・技術の修得、防災意識の向上、防災行動力の強化を目的として実施しています。

袋井市消防団

消防団は、消火活動のみならず、地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助救援活動、避難誘導など非常に重要な役割を果たしています。市には15個の分団があり、巡回広報、特別警戒など地域に密着した活動を展開しており、地域における防災力の要となっています。

